

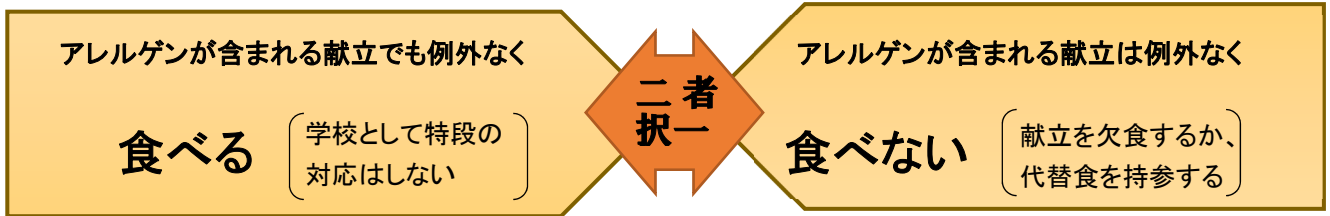
## 安全性確保のための

# 「三田市学校給食の食物アレルギー対応」のポイント

三田市教育委員会

### ポイント1 食べる／食べないの「二者択一」

『安全性確保のための原因食物の完全除去対応（提供するかしないか）を原則』に基づき、二者択一となります。食物アレルギーを有するお子さんへの対応は、次のどちらかに限定します。



- ☆ 上記の「アレルギーが含まれる」とは、ごく少量（調味料に含まれる大豆、小麦等 通常除去する必要がない程度）のアレルギーのみ含まれる場合を除きます。
- ☆ ここでいう「献立」とは、食事を構成する各要素（主食、主菜、副菜等）の1つを指すものです。
- ☆ 医師の指示により完全にアレルギーが解除となるまで、献立1品まるごとの欠食となります。
- ☆ 学校給食において、献立を欠食される場合は、原則として保護者の方による毎月の『食物アレルギーチェック用献立表』の確認、提出していただきます。

### ポイント2 場合によっては完全弁当対応も

安全に学校給食等を提供することは困難と考えられる場合は、完全弁当対応とします。

- ☆ 多品目の食物除去が必要である。
- ☆ ごく微量のアレルギーであっても症状が誘発される可能性がある。
- ☆ その他、学校給食で対応が困難と考えられる場合。

### ポイント3 「多段階対応」は一切行いません

#### （例）卵アレルギーについて

卵が混ぜ込まれた献立は、食べないが、八宝菜に入っているうずら卵は、1個だけ食べ、残りのたまごは食べない。

⇒調理や配膳の途中で割れた卵のかけらが混ざり込んでいる可能性があり、確実な除去は不可能です。

#### （例）乳アレルギーについて

主治医の指導の下、牛乳を飲む練習をしている。現在は、20ccまで飲んでよいとされている。

⇒主治医の指導があったとしても、学校においては、量を限って食べる（飲む）取り扱いはできません。

#### 多段階対応の危険性

- 学校給食では、大量に調理し児童生徒が盛り付けるといった特性上、配膳される食材量を正確にコントロールすることは不可能です。
- 体調が悪く、普段より少ないアレルギーで症状が出る日もあると考えられますが、ご家庭と異なり、細かな体調変化を見極め、食事の量の調整などの対応をすることは困難です。